

第2学年 国語科学習指導案

2年 31名

指導者 竹本 留美子

1 単元名 自分と比べて読み、登場人物に手紙を書こう 『お手紙』(光村図書 2年)

2 単元について

本学級の子どもたちは、本に親しみ、物語を読む学習を楽しみにしている。しかし、語彙の少なさから、場面の様子を想像しにくい子や、自分の考えを書くことが苦手な子もいる。そこで、『スイミー』の学習では、「もし自分がスイミーだったらどう思うだろう」と、主人公の気持ちに寄り添って「なりきり日記」を書く経験をした。様子を表す言葉に着目し、絵本の挿絵や具体物を見たり、身体表現をしたりしながら想像を広げることで、場面の様子を捉えることができるようになってきた。また、はじめは書く手が止まってしまっていた子も、学習問題についてみんなで意見を出し合ってから日記を書く活動を繰り返すことで、友達の意見を参考にして自分の考えをもち、自分なりの言葉で表現することができるようになってきている。

『お手紙』は、手紙をもらったことがないと悲しむ「がまくん」と、その気持ちに共感し、手紙を書いて喜ばせようとする「かえるくん」の友情を描いた作品である。本単元は、登場人物を自分と比べて読むことを目標としている。手紙が来ないといじけたり、お手紙を書いたことを思わず言ってしまうりする、子どものような心をもった二人だからこそ、子どもたちは同じ目線で自分と比べて読むことができる考える。また、『お手紙』は会話を中心に構成されており、前後に「～が言いました。」と書いてあるため、誰の言動なのかを捉えやすくなっている。主語と述語の関係を確認しながら、登場人物の行動を具体的に想像するのに適した教材である。

本単元では、『スイミー』の学習で目標としていた場面や人物の様子を思い浮かべながら読むことに加え、自分と比べて感想をもつことができるようにする。そのため、登場人物と自分を比べて感じたことを交流し、登場人物に宛てて手紙を書く活動を設定した。しかし、子どもたちは手紙を出したり届くのを待ったりする経験が少なく、自分と比べて読むことが難しいと予想される。そこで、単元に入る前に、家族に向けて生活科のイベントへの招待状を書き、家族には内緒で自宅に郵送した。届くまで何度も郵便受けを覗いたり、招待状を出したことをつい家族に話してしまったりと、かえるくんと同じような行動をした子どもも多くいたようである。第一次では、登場人物の行動に対して「自分だったらどうするか」を考え、交流することで、それぞれが自分の問いをもち、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。第二次では、子どもたちの問いから学習問題を設定し、みんなで話し合って追求していく。まずは会話をシールで色分けして役割読みをし、登場人物の言動や気持ちをしっかりと捉えさせておきたい。話し合いの際には、「どうしてそう思ったの?」と問いかけ、自分の体験や叙述をもとにして、そう考えた理由も答えることができるようにする。各場面の学習の最後に、子どもたち自身から登場人物に宛てた手紙を書くことで、自分と比べて読んだ考えをまとめ、表現することができるようにする。第三次では、『お手紙』と同じシリーズの作品を読み、感想を交流する。教科書に載っている『おちば』などの作品を『お手紙』や自分と比べ、感想を交流することを通して、同シリーズの作品のおもしろさや二人の関係性についてさらに読み深められるようにしたい。

本時では、子どもたちの問いの中から、お手紙を出したことを思わずがまくんに言ってしまったかえるくんの言動について取り上げる。かえるくんから子どもたちに届いた「みんなならどうする?」という手紙に返事を書くことを活動目標とし、自分だったら言うか言わないかを意思決定させることで、自分事として考えることができるようにする。また、がまくんとかえるくんの気持ちメーターを示して、イライラや焦りがだんだんと高まってくる様子を可視化することにより、かえるくんが思わず言ってしまった気持ちを捉えさせたい。対話を通して深まった考えを整理して板書することで、書くことが苦手な子もそれをもとにして自分の考えを手紙に書くことができるようにしたい。

3 単元目標

- (1) 活動目標 自分と比べて読み、登場人物に手紙を書こう。
 (2) 指導目標と単元の評価規準

指導目標	評価規準	評価の観点
○身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができるようにする。 ○文の中における主語と述語の関係に気づくことができるようにする。	○身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。 ○文の中における主語と述語の関係に気づいている。	知識・技能 (1) オ・カ
○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができるようにする。 ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができるようにする。	○「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 ○「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	思考・判断・表現 C (1) エ・オ
○文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習問題に沿って、進んで登場人物に手紙を書こうとする態度を育てる。	○文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習問題に沿って、進んで登場人物に手紙を書こうとしている。	主体的に学習に取り組む態度

4 単元の構想表

学習活動と子どもの意識 (全13時間)	主な指導・支援	評価規準
<p>第一次・・・物語を読んで、自分だったらどうするかを考え、問いをもつ。(3時間)</p> <div> <div> <p>どうしてお手紙を出したことを言ってしまったのかな。</p> </div> <div> <p>お手紙をかたむりくんに頼んでよかったのかな。</p> </div> </div>	<p>○物語の内容について考えたことを交流することで、自分の問いをもつことができるようにする。</p>	<p>○『お手紙』を読んだ感想を伝え合い、見通しをもって学習を進めている。 (発言・記述)</p>
<p>第二次・・・場面ごとに登場人物と自分を比べて読み、登場人物に手紙を書く。 (本時4/7時間)</p> <div> <div> <p>わたしも、がまくんに早く元気になってほしくて言ってしまうと思うな。</p> </div> <div> <p>ぼくなら、もっと早く届けてくれそうなきぎに頼むと思うよ。</p> </div> </div> <div> <p>がまくん、かえるくんみたいな親友がいてよかったね。</p> </div>	<p>○「がまくん」と「かえるくん」に分担して会話文を音読し、誰が何をしたのかを捉えることができるようにする。 ○「自分だったら～」と考え、意見交流を通して考えを広げることができるようにする。 ○意見を整理して板書し、それをもとにして自分の考えを書くことができるようにする。</p>	<p>○文の中における主語と述語の関係に気づいている。(発言・記述) ○場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(発言・記述) ○文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(発言・記述) ○身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(発言・記述)</p>
<p>第三次・・・同じシリーズの物語を読み、感想を交流する。(3時間)</p> <div> <div> <p>『おちば』は二人とも幸せになるところが『お手紙』と似ているね。</p> </div> <div> <p>相手のことを大切にする親友っていいな。</p> </div> </div>	<p>○絵本の挿絵や具体物を活用することで、様子を具体的に想像し、登場人物の気持ちを捉えて感想をもつことができるようにする。</p>	<p>○登場人物の行動や様子を具体的に想像し、自分と比べて感想を交流しようとしている。(発言・記述)</p>

5 本時の活動

(1) 目 標 ①活動目標 かえるくんと自分を比べて読み、かえるくんに手紙を書こう。

②指導目標 三場面の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、手紙に書くことができるようにする。

(2) 展 開

学習活動	主な指導・支援	具体の評価規準
<p>1 前時をふり返し、本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">手紙を出したことをがまくんに言ってよかったのだろうか。</div> <p>2 自分だったら言うか言わないか、自分の考えをもつ。</p> <p>3 それぞれの考えの理由を話し合う。</p> <p>4 かえるくんに手紙を書く。</p>	<p>1 前時に書いた手紙を紹介することで、内緒で手紙を出したかえるくんの気持ちに気づくことができるようにする。</p> <p>2 自分の立場を明確にし、ペアで話し合うことにより、全員が自分の意見をもって話し合いに参加できるようにする。</p> <p>3 繰り返し出てくる文に着目させ、二人の気持ちの変化を可視化することで、かえるくんが言ってしまった理由を考えることができるようにする。</p> <p>4 話し合った内容を板書し、それをもとにして手紙を書くことができるようにする。 ○必要に応じてヒントカードを示す。</p>	<p>○場面の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (発言・記述)</p>

(3) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	場面の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、手紙に自分の考えを書いている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	登場人物の気持ちの変化や話し合った内容を可視化したり、ヒントカードを示したりすることにより、自分の考えを手紙に書くことができるようにする。